



# 小倉ロータリークラブ 週報

## RIテーマ：“人類に奉仕するロータリー”

RI会長：ジョン F. ジャーム 氏  
(所属：チャタヌガ RC)

## 地区テーマ：“基本に返って、 魅力あるロータリーに”

地区ガバナー：富田 英壽 氏(所属：甘木 RC)

## クラブテーマ：“魅力あるロータリーに”

会長 伊与田 修 / 幹事 松永 浩



### 表紙写真説明(テーマ/京都御所)

御所の紫宸殿の左近の桜は、ヤマ桜が植えられていますが、インバウンド客を迎えていました。右近の橋の方が小ぶりです。ひな飾りの本家本元を、一度はご覧になって下さい。

【撮影：辰巳会員 京都にて】

例会場 リーガロイヤルホテル小倉 TEL 093 (531) 1121

《報告に関して、敬称略》

例会日 毎週金曜日 12:30~13:30

事務局 e-MAIL : [krpc@rid27.jp](mailto:krpc@rid27.jp)

事務局 北九州市小倉北区浅野2-14-2 リーガロイヤルホテル小倉2F TEL (531) 1727 FAX (522) 4333

会報・雑誌 委員会 委員長：佐久間 康和

委員：森 浩明・板井 清記・成沢 裕・渡邊 昌春

四つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか



### 本日の例会 第3308回

- ・ロータリーソング “それでこそロータリー”
- ・卓話 Weekend株 CEO 増崎 慶太 氏

ナードの年度で、小倉 RC が御世話をした時でした。3月 11 日に震災があり、4月初めに地区大会でした。世間一般に行事を自粛する傾向でしたが、あえて予定通り開催し、盛会だった覚えがあります。と言う事で、今週末は地区大会です。皆様の出席をお待ちしています。

## 第3307回 例会 記録

### 4月14日(金) 普通例会

- ・国歌斉唱
- ・ロータリーソング “我らの生業”
- ・地区研修・協議会報告

### 幹事報告

松永 幹事

当クラブが、米山記念奨学生の世話クラブに委嘱されましたのでご報告致します。奨学生は、九州大学の巖 子龍 (げん しりゅう) 氏、中国の方です。奨学期間は 2017 年 4 月から 2019 年 3 月です。カウンセラーは、私、松永が担当します。4 月 23 日にオリエンテーションがあり、例会には 5 月から参加される予定です。どうぞよろしくお願ひいたします。

### 会長の時間

伊与田 修 会長

今日は、熊本の大震災からちょうど 1 年になります。まだ仮設住宅で暮らしている人も多く、交通も復旧していない状態ですが、自分の記憶から薄れている事に愕然としました。そう言えば、昨年の地区大会に RI 会長代理で来られた方は大分在住で被災されており、出席が可能かどうかパストガバナーが心配されていました。さらに、あの東日本大震災の年は、原田パストガバ



## 出席報告

### 二村 委員長

2016年7月1日：64名でスタート

	会員数	出席者数	メークアップ	出席率
当日の出席	65名	36名	—	63.16%
先週の出席	65名	33名	28名	92.98% 修正後

◆ゲスト 0名  
 ◆ビジター 0名  
 ◆名誉会員 1名  
 ・松元 照仁 氏

## 委員会報告

### 青少年奉仕委員会

明日は第3土曜日ですので早朝清掃です。6時過ぎに小倉駅前に、どうぞお越し下さい。

## ニコニコ献金

18,000円：累計金額 526,170円

### 原田 光久君

佐久間庸和さん、貴著「人生の修め方」読了。実に感心しました。本当にありがとうございました。

### 原田 鉄司君

本日誕生日で、84才になりました。

### 辰巳 和正君

花見上洛をして、醍醐寺～辰巳神社～御所～平野神社の満開の桜を楽しみました。都おどりの名花たちも楽しみ、祇園のフレンチで旧交を暖めました。

### 大迫 益男君

ペコペコ早退します！

### 荒木 英生君

次年度に向けての地区研修・協議会に参加いただいた皆様、ありがとうございました。打ち上げの青レモンサワーおいしかったです。

### 増田 雄一君

クリニックの所用で中途退席いたしますので、ペコペコします。申し訳ありません。

### 松石 権己君

ティッシュ配りました！！ 是非ご利用下さい。もちろん北九州一沖縄です。

## 地区研修・協議会報告

日 時：4月8日（土）13時～18時30分

場 所：アクロス福岡（福岡市天神）

ホストクラブ：宗像RC



### ◎全体会議、会長幹事部会

### 荒木 次年度会長

2017～2018年度の地区研修・協議会は、当クラブからは原田PGをはじめ13名が参加して開催された。登録者総数は700名を超えていた。安増ガバナーエレクトの点鐘と富田ガバナーの挨拶で始まった。その後、安増ガバナーエレクトが80分間「次年度方針」を説明された。

#### ①安増惇夫ガバナーエレクト 「次年度方針」

2017～2018年度の国際ロータリーの「ロータリー：変化をもたらす」というテーマを受け、第2700地区のテーマは、「拡がりは変化をもたらします」と発表された。最近は柔軟性という言葉でクラブの自主性が重視され、活動方針はクラブで考えて決めるということが強調されている。そのため、長期計画委員会を設置し、CLP（クラブリーダーシッププラン）を導入してほしい。さらに第2700地区からは、①奉仕の拡がりとして、新たに地区補助金を使った奉仕プロジェクトを開発して地区委員会に相談して実行する。②会員の拡がりとして、会員増強に加えて会員維持や会員研修にも力を入れる。そのために、地区拡大会員増強委員会が新たに会員基盤向上部門も担い適切なサポートを提供する。③対外広報の拡がりとして、各クラブに広報担当委員を置き、地区ホームページを含めたITを活用して地区とクラブが密接に連携を図る。以上のことことが要請された。

#### ②井出和英研修リーダー「講話」

第2700地区的現状について、平均会員数は51名で、日本34地区中2位で、出席率は5位である。女性会員、若手会員は少ない。新会員に対し、資料を用いたロータリー情報の研修をぜひ行っていただきたい。



## ◎全体会議、会長幹事部会



### 合馬 次年度幹事

#### ①地区危機管理委員会について

昨年より設置し、地区内のRC・ロータリアン・ロータリー活動に関わる青少年を対象に「好ましくない事態全て」を危機ととらえ、的確に対処する体制である。日本のロータリーでNPO法人(RI JYEC)を作り、損害賠償保険加入している。多地区合同によるため、当日投票にて賛成多数で第2700地区も参加することとなった。(危機の具体的な対象・・・虐待・ハラスメント・災害・事故等)

#### ②長期計画委員会設置について

地区やクラブの組織運営は時代の変化やニーズに応じて改革し、維持・発展につなげることが重要である。長期計画(3~5年めど)はクラブが将来的に「こうありたい」というビジョンを描き、それに添った目標計画と行動計画を立てることである。次年度に各クラブ内に委員会設置をし準備を行い、次々年度に開始してほしいとのこと。(検討事項例・・・会員増強・維持、CLP導入によるクラブ強化・効率的運営→必要に応じクラブ組織や委員会の見直し可、クラブ会計見直し、公共イメージ・認知度向上対策等)

#### ③DLP(地区リーダーシッププラン)による地区管理

地区委員会に一部変更はあるが第2700地区は組織的には継続し、各クラブはガバナー補佐及び地区委員会とが連携している。地区は各クラブの要請に応じ相談や補助金等支援を行う。

以上、3項目が主だったが、地区が時代の変化と共に改革に取り組み、地区が各クラブを支援するという点が新鮮だった。最終的には、各クラブが自主性を持ち活性化していくことにつながることが重要と言っていたので、当クラブも必要なものを取り入れ対応していくのが良いと思う。

## ◎クラブ奉仕部会、会員増強部会

### 角南 次年度クラブ奉仕委員長



まず、久保田地区委員長から当地区的現状が説明されました。総会員数は、2006年7月の3285人から、2017年には3221人と若干の減少ですが、女性会員数は、10年で、63人から156人に増加しました。女性会員については、多くの女性会員を受け入れているクラブもあれば1人も居ないクラブも多く、クラブ間の偏在が見られます。

その上で、地区的長期計画では、今後5年間で、総会員数を3221人から3400人にする、という目標を立

てています。このため、次年度、クラブ会員数50人以上のクラブは、純増2名を目標にしてほしい、とのことでした。この目標をサポートするため、地区委員会は、これまでの拡大・会員増強部門に加え、「会員基盤向上部門」を新設しました。これまでのよう、単に新クラブを作ったりクラブの会員数を増やす(拡大)という点のみならず、入会後の会員について、手厚いサポートを為し、ロータリーに対する失望からくる退会者を減らす(維持)、というものです。地区委員会は、新部門を作ったことで委員数も大きく増やされました。

「会員基盤向上」といっても、各クラブの運営管理(例会・会員研修・長期計画)について地区委員会としてサポートを為すというものにすぎず、決してクラブ運営につき、強制するものではありません。また、地区委員長からは、会員基盤向上のため、各クラブ内に「長期計画委員会」の設置やCLP(CULB LEADERSHIP PLAN)の導入・推進等を検討してほしい、とのお話がありました。

年度ごとに会長・幹事等が変わることで引き継ぎが上手くいかず、入会候補者の情報が途絶えるといった、これまでの弊害を無くすこと、等が趣旨だそうです。これを導入するか否か、これまでの委員会(会員増強委員会)や理事会との関係や、その役割・必要性・構成メンバーの範囲をどうするべきか等、検討課題も多いように思います。この点、地区委員会としては、8月5日に「会員基盤向上セミナー」を開催し、地区委員会が考へている具体的な内容をご説明するうえで、ぜひ参加してください、とのお話でした。

## ◎広報・IT・会報部会

### 成沢 次年度クラブ会報委員長



地区広報活動の充実を図るため、従前の広報・IT委員会と会報・雑誌委員会を併合して「広報・IT・会報委員会」と名称変更されました。

名称から雑誌が消えたから「月信」が無くなるわけではなく、地区Webサイトと連携した記事などのページが増えて生まれ変わるそうです。

本部会では、在津委員長より次年度活動方針の説明が行われました。基本方針は以下の3つで、

- ①公共イメージと認知度の向上を図るために、積極的に对外広報に取り組む。
- ②クラブや地区委員会の事業、ガバナー事務所からのお知らせ等を、会員に早く詳しく伝えられる体制を構築する。
- ③マイロータリーとロータリーセントラルの普及に向けてクラブサポートを強化する。

上記3項目には、「広報委員の選出(1~2名)」「ITの活用」が必要とのことで、各クラブで取り組んでいる

様々な活動の中から「広報」する価値のあるロータリー活動を掘り起こし、写真やちょっとしたコメントを添えてメールで送ってもらいたいそうです。

地区委員会を核として各クラブ広報委員で構成する「地区広報ネットワーク」を構築し、地区内の新聞、テレビ等のメディアに対するロータリーの認知度向上を目的とした連絡体制を整備するそうです。

現在の地区 Web サイトについては、重要な広報媒体ツールとして地区、クラブ、会員の情報交換(内部広報)だけでなく、地域一般の人達にも興味を持っていただけるような内容を目指し(外部広報)、全面的に改裝するとのことで、以前「ロータリーの友」等の雑誌に応募しながら未掲載となった情報もこのサイトに掲載したいそうです。

また、各会員に対し「マイロータリー」への登録を強くお願いしていました。これは国際ロータリーの Web サイト上にロータリアンの権利として自分の居場所を作ることになるとのことです。登録者数が伸び悩んでおり、国際ロータリーでは「マイロータリー」の登録者数でそのクラブを評価しているそうで、是非登録してもらいたいとのことでした。

次年度の各種会議等の予定は、広報 IT 委員会を隔(偶数)月実施、広報ネットワーク会議(広報委員出席)を 7 月より 3 ヶ月毎に実施、実践広報セミナーを 11 月又は 12 月に実施するとのことでした。



↑「こちらにメールを送信して下さい」…といわれても、怖くて私は送信できませんでした。

## ◎ロータリー情報部会

### 西村 次年度ロータリー情報委員(代読:辰巳委員長)



新年度の活動方針について、大牟田南 RC の中野博リーダーから説明があった。役割としてクラブのロータリー情報委員会は、全会員、特に新会員がロータリーを十分理解し、ロータリー会員の特典と責務を把握できるよう力を注がなければならぬ。更に会員にあらゆるレベルのロータリーの歴史・綱領・活動に関する情報を提供し、入会してから最初の 1 年間、新会員のオリエンテーションを監督するものとする。

活動方針として、昨年の国際ロータリーの規定審議会(RI の立法機関)の決議内容を見ても大きく変化しており、第 2700 地区ではその変化に流されることなく、各ロータリアンがロータリーの基本をしっかりと理解し、各クラブが独自性を持って活動していくよう地区としてサポートする。4 月 22 日に研修会、9 月上旬に情報委員長会議、11 月に研修会を予定している。

クラブから地区情報委員会に対する要望などに関するアンケートを提出願いたい。研修会のテーマやクラブ定款細則の変更について等。

次に、廣畠名誉顧問兼カウンセラーから、「職業奉仕・職業サービスを考える」というテーマで講話を頂いた。職業奉仕は、医師の無医村診療や、弁護士の無料相談などと誤解されているが、「サービス」という概念は、相手をおもんばかり、相手の為になる行為であり、英語の「サービス」に無料という概念は無い。思いやりの心をもって接することを言うのであって、職業サービスは高い倫理性を求める事だ、とあった。

次に、RI2015~2016 年規定審議会結果に対する対応について、中村リーダーから説明があった。クラブ定款細則変更の主な留意点について説明があったが、省略する。変更には膨大な時間とエネルギーがかかるが、第 2700 地区では、昨年 2 クラブで変更が行われた。日本のロータリーは海外より几帳面で、あまり神經質にならなくて良い、と結ばれた。規定審議会立法案があれば、12 月末までに提出して下さい。

最後に、廣畠カウンセラーが、日本のロータリーはロータリーハundred 余年の良き伝統を保持してきたと思う。我々は胸を張ってロータリーの基本を守り、我々の信じるところを世界に伝えていく。それが世界のロータリーに大きな貢献になる、と結ばれた。

## ◎職業奉仕部会

### 高山 次年度職業奉仕委員(代読:合馬幹事)

職業奉仕の観念は、職業人であるロータリアンが、世の中の役に立つビジネスや専門職を倫理的に行う事を、意義ある事業の基礎として捉え、「四つのテスト」に合致する職業を実践することが職業奉仕の理想を進めること、と捉えられていました。

昨年の規定審議会で、自分の専門職業をする奉仕も職業奉仕との解釈が定義され、自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるために、クラブが開発したプロジェクトに応える事も含むようになりました。即ち、医師の行う無医村診療や、弁護士の行う無料法律相談は、社会奉仕というのが今までの考え方でしたが、昨年からは、自分の職業を提供する社会奉仕的な活動も、職業奉仕といえるようになりました。

委員会最後に、カウンセラーの熊澤バストガバナーより、職業奉仕はロータリアンの基本であり、職業奉仕委員会は、幅広く何でも出来る委員会なので、次年度のテーマでもある「変化をもたらして下さい」という言葉が印象的でした。

## ◎社会奉仕部会



### 松永 次年度社会奉仕副委員長

社会奉仕部会は60分間を穴井カウンセラーの基調講演、残り30分間を社会奉仕委員会の活動計画の発表がありました。

基調講演行った理由ですが、社会奉仕委員会が例年61クラブ中、25~30の出前講話を行った際、ロータリーの社会奉仕活動について

対面の事業でないといけないのか？ ロータリーの宣伝をしていいのか？ 慎むべきことなのか？ などの質問の回答として講演を行いました。

内容としては、1905年の誕生から現在まで約110年の間、協調されてきたことや決議など手続き要覧を参考にしながらご講演を行いました。また、2016年の規定審議会で採択された主要な制定の内容についての説明もありました。ロータリーの理念の変遷を理解する講演でした。その中でも、RC最初の社会奉仕活動は、1906年シカゴ市に公衆便所の設置運動から始まったことを初めて知りました。

最後に活動計画の説明があり、次年度ガバナーの所信・メッセージ・活動方針を真摯に受け止めて、なすべきことを真剣に取り組む姿勢を説明されました。

6月にアンケートを収集し、グループ会議を行い、委員長との話し合いをしっかりと設け、ロータリー財団の補助金を活用して実践できる社会奉仕委員会を実現できるようにしていきたいとの事でした。当クラブもロータリー財団の補助金を受け取りたい事業があれば何卒ご紹介ください。

## ◎国際奉仕部会

### 松本 次年度国際奉仕委員長（代読合馬幹事）

まず、震災から2年を経過したネパールにおける学校支援事業について真鍋副委員長（行橋みやこRC）より紹介された。引き続き、主に直近3年間のICS（International Community Service）活動について片岡委員長（苅田RC）より報告があった。

次に、国際奉仕をテーマに報告がなされた。委員会は、地区国際奉仕関係のうち、地区内のクラブが実施する人道的国際奉仕事業の事務的サポートや、地区ICS資金での資金補助を行うとともに、海外のクラブから求められる人道援助等を地区内クラブに紹介、それに携わるクラブを調整し補助する立場をとっている。地区資金総額の使途は明確であるものの、事業の企画やサポートのための渡航費用・事業通信費等の諸経費は委員会委員が個人負担とされており、委員の時間的・経済的負担が活動の障がいとなっている旨報告された。今後、各クラブから活発にICS事業申請されることが望ましいが、事業メニューは地区委員会が情報を持っているので、各クラブ各グループが参加する意欲を持ってほしいとの要望があった。

最後に、グローバル補助金について報告された。グローバル補助金は、平和と紛争予防/紛争解決等6つの重点分野に該当し、持続可能かつ測定可能な成果をもたらす活動について支援するものだが、言葉や文化の壁もあり、その活用はそもそも日本にとってハードルが高いとのことである。地区ごとの実績でも、海外事業所をもつ大企業勤務の会員が所属する都市部の地区において実施件数が大きいとの報告があった。また、ガバナーより、次年度は、ガバナー補佐主管でグループごとに社会奉仕・国際奉仕・ロータリー財団の3委員会合同会議の開催し、本補助金の活用を企画検討するよう提唱されている、との話があった。

## ◎青少年奉仕部会

### 森 次年度青少年奉仕委員長



青少年奉仕部門では、活動基本方針～「未来のロータリアンを創る」～のもと、(1)青少年奉仕、(2) IAC、(3)ローターアクト、(4)RYLA・青少年育成、(5)国際青少年交換、(6)危機管理の6つの委員会の委員長より、それぞれ次年度の活動の説明がありました。

青少年奉仕委員会の田村委員長からは、IAC・ローターアクト・RYLA・国際青少年交換の4つが相互に連携する「学友クロスプロモーション」の概念について説明があり、本年度に引き続き「青少年交流フェスタ」を来年1月21日に開催することを計画しているとの説明がありました。

IAC委員会の竹田委員長からは、IAC顧問教師と提唱RCのIAC委員長が年度当初に集まり、当該年度の方針や活動内容を確認する機会として「地区研修会」を7月1日に行うことや、IACの会長・副会長・幹事など役員のリーダー研修の機会として「指導者研修」を7月29日と30日の2日間に行うこと、各IAC代表が海外での交流や体験を通じて国際理解・国際親善などの国際感覚を身につける機会として「海外短期研修」を来年3月22日から24日までの3日間、行き先は台湾を予定していること、各IACの年間活動報告を行い、アクター同士の交流を深める機会として「年次大会」を来年4月29日に行うことなどの説明がありました。

ローターアクト委員会の藤島委員長からは、ローターアクトもロータリーと同じように例会を行い、地区内の東部（第1グループ）と西部（第2グループ）に分かれてローターアクトのIMを行うなどの説明がありました。

RYLA・育成委員会の井上委員長からは、RYLAとは「Rotary Youth Leadership Awards」の頭文字で「ロータリー青少年指導者養成プログラム」と訳され、地域における将来のリーダーを育てることを目的に「RYLAセミナー」を継続開催することなどの説明がありました。

国際青少年交換委員会の貞包委員長からは、異なる国の文化や習慣に触れることで、グローバルな理解が芽生え、世界平和の土台が築かれることを目指し、海外の学生を受け入れるインバウンドと日本の学生を送り出すアウトバウンドの2つの海外交換事業について説明がありました。

最後に、危機管理委員会の大楠委員長より、2004年に青少年交換学生がハラスメントを受けていたことの報告がありながら早急な対応をしなかつたために高額の賠償金が請求され支払ったことをきっかけに各地区内に危機管理委員会が設けられたこと、現在では地区横断的に RIJYEC という組織が立ち上がっていることなどの説明がありました。

青少年奉仕の活動は、幅広く専門的なため、どこまで理解できているかというと全く自信がありませんので、本年度の村上委員長・杣副委員長をはじめ、これまで青少年奉仕・新世代奉仕に携わってこられた歴代の先輩方よりしっかりと話を伺い、7月からの活動に備えてまいりたいと思います。

## ◎ロータリー財団部会

### 伊与田 次年度ロータリー財団委員長



ロータリー財団の分科会は、昨年11月に卓話を頂いた岩崎地区委員長の講義があり、その後に質疑応答が行われました。現在補助金の活用が十分では無く、地区では余っている状態であり、活用の実際について話がありました。今年の1月に補助金活用については地区でセミナーがあり、それと同様の話でした。補助金申請の書類については、その時に見本を資料として頂いていますので、事務局に置いておきます。

## ◎米山記念奨学部会

### 小島 次年度米山記念奨学委員長



部会での冒頭において、安増ガバナーエレクトが部会カウンセラーとして挨拶された後、第2700地区における米山記念奨学委員会の役員及び地区委員の紹介が行われた。

会議に入り、吉田米山記念奨学地区委員長から、スライド及び資料に基づいて米山記念奨学事業の概要についての説明があり、その中で、各クラブにおける米山記念奨学委員長の役割は二つであると強調され、そのひとつは、米山記念奨学事業の意義をクラブに啓発することであり、もう一つはクラブでの寄付増進に努めることであると話された。

クラブ内での米山記念奨学事業の啓発については、米山月間(10月)に限らず、米山に関する卓話を必ず計画すること、また、米山記念奨学事業そのものを多くの会員により深く知つてもらうために、本部から送られてくる定期的な文書(ハイライトよねやま、寄付金納入明細表など)をクラブ内で積極的に配布して欲しいとのことであった。毎年、会員に配られる「豆辞典」がコンパクトであり、中身としても一番まとまっているので、ぜひ活用してほしいとのことであった。

次に、もう一つの役割であるクラブ内での寄付増進については、第2700地区の個人平均寄付額が全国平均を大きく下回っている(34地区中24位)こと、また、特別寄付者の割合は全国最下位の定位置にある(全国が43.2%であるのに対し、当地区は9.3%)この現状を十分に認識していただいたうえで、各クラブにおいて、一般寄付額及び特別寄付額を増やすための具体的な取り組みをぜひ実施してほしいと要望された。

第2700地区の米山記念奨学委員会では、個人平均寄付額を現在の12,362円の水準から引き上げて、全国平均である17,000円を目標に掲げている。(ちなみに全国の最高は、第2760地区の愛知県で個人平均寄付額は44,399円で、第2700地区の3.6倍である。)

話の最後に、吉田委員長から2017年度の地区委員会の事業計画についての紹介が行われた。

委員長からの報告の後、質疑応答の時間が設けられ、会員の中から寄付金の税金上の取り扱いなどについて質問があり、それぞれに対して回答がなされたが、予定された時間内に部会は終了した。

米山記念奨学部会に出席した感想としては、改めてクラブ内に米山記念奨学事業の啓発をより積極的に推し進めることと、寄付金、特に特別寄付金を増やすべく工夫をする必要性を感じた。



## 【次回例会予告】

4月28日(金) 普通例会

- ・ロータリーソング “四つのテスト”
- ・会員卓話 九州電力(株)

執行役員北九州支社長 廣渡 健 氏  
『エネルギー情勢と九州電力の取組み』